

11月20日（水）、3年1組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「食べ物のひみつを教えます」です。選んだ食べ方を勧める理由を、紹介文として詳しく書くことが目標です。

初めに、教師が、「こねるとできます」と、ある食べ物の食べ方を紹介しました。すると、児童から「何が？」「主語がない」という発言がありました。教師が、「そうだね、では、『おもちこねるとできます』ではどうですか」と言いました。児童は、「何をこねると？」「味付けは？」と質問しました。その後も、「もちもちしていておいしい」や、「あんこを入れると甘い」「きな粉を付ける」など、いろいろな情報が児童から付け足されました。

児童の言葉がたくさん聞かれたところで、学習の目標を確認しました。特に、詳しい食べ方を書くとレベル2、自分が食べた経験を書くとレベル3、のように段階を示し、児童の意欲を高めました。

次に、自分が選んだ食べ物の食べ方を一つ選び、勧める理由を書きました。タブレットの探究学習ソフトを使って、料理のレシピを調べ、プリントに書く児童もいました。教師は、児童の間を歩きながら、「これは固いの？」「食べたことある？」と対話を続け、理由が詳しくなるように支援をしました。また、「体験も書けると、よりいいね」と、レベルを上げるための声掛けもしました。プリントにも、体験を書くことができる工夫がされていました。

最後に、グループになり、友達が書いたプリントを見合いました。その際、タブレットのカメラ機能を使い、友達のプリントを順に撮影し、自席で確認できるようにしました。こうすることで、グループの友達が、同時に同じプリントを見て、内容について話し合うことができました。グループでは、司会役の児童が「理由が書かれていますか」「いろいろ質問しましょう」と話し合いを進め、「理由が書いてある。花丸！」や、「固さは？」「どこで食べたの？」と、活発なやり取りが見られました。振り返りでは、学級の半分の児童がレベル3に達したと振り返ることができました。

意見文や紹介文を書くためには、書く内容（情報、材料）をたくさん集める必要があります。その方法として、自分の経験やインターネットからの情報収集、友達や教師との対話があります。それらによって、意見文や紹介文は、より詳しく説得力のあるものになり、伝えたいことが伝わるようになります。児童には、今回の経験を忘れず、今後も進んで文章を書くことができるようになってほしいと思います。



【めあてを確認する様子】



【レシピを調べる児童】



【プリントを撮影する児童】